

令和2年度の市民部会の活動進捗報告

1. 市民部会の課題と今年度の活動目標

市民部会で抽出された課題と今年度の活動目標を以下に示す。

<課題> 流域連携	<今年度の活動目標> 矢作川を巡るバスツアーの開催を目指して、各地域部会の意見をもとに、バスツアーのルートおよび内容を企画する。 市民部会メンバーが知りたい情報や流域住民に知ってほしい情報に関する勉強会を開催する。
--------------	---

※令和元年度全体会議より

2. 今年度の活動実績

活動内容	日時	場所	議題
第7回WG 14名参加 (内オンライン参加1名)	7月14日(火) 14:10-16:30	・豊田市崇化館交流館	・バスツアーの検討 ・勉強会のテーマや勉強内容の検討
第8回WG 12名参加 (内オンライン参加1名)	10月8日(木) 14:00-16:00	・豊田市崇化館交流館	・バスツアーの再検討 ・勉強会実施内容の具体化
まどめの会 ○名参加 (内オンライン参加○名)	12月9日(水) 14:00-16:00	・豊田市崇化館交流館	・今年度の振り返り ・来年度に向けた目標設定

※参加人数は事務局含む

3. 市民部会 令和2年度の活動成果 まとめ

山川海合同のバスツアーの企画

- ・地域部会(山・川・海)が抱える課題などを矢作川流域圏懇談会全体での共通認識とし、つながりを深めていくことを目的に、山・川・海部会合同のバスツアーのルートおよび内容を検討した。



外部への勉強会の企画

- ・昨年度までの市民部会で課題とされていた「外部への発信」の解決策として、懇談会メンバーだけでなく、一般の地域住民も対象として、勉強会を計画した。
- ・市民部会メンバーが知りたい情報や流域住民に知ってほしい情報について話し合い、マイクロプラスチックとネオニコチノイド系農薬の2テーマに決定した。
- ・候補としてあがった講師の方に連絡を取り、依頼を行った。



流域連携イベントにおける情報発信手法の検討

- ・昨年度の流域連携イベント開催時の状況を踏まえ、今年度の情報発信手法について、話し合いを行った。
- ・近年の災害の発生状況を考慮し、防災関係の展示の必要性について検討し、ハザードマップなどを展示することとした。

4. 活動進捗報告

4.1 山川海合同のバスツアーの企画

(1) 今年度の活動目標に対する進捗状況

【今年度の活動目標】

○矢作川を巡るバスツアーの開催を目指して、各地域部会の意見をもとに、バスツアーのルートおよび内容を企画する。

《進捗状況》

- ・スケジュールおよび内容の検討を行い、発信したい内容について、各地域部会に改めて確認し、バスツアーの開催に向けてルートと内容の検討を行った。

(2) 今年度の活動成果

- ・昨年度の全体会議後に実施した「バスツアーの事前打合せ」の結果を踏まえ、山川海合同のバスツアーの計画を行った。各地域部会には、内容の再確認と説明時間の確認を行い、各地点への訪問時間とルートを設定した。
- ・しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、今年度の開催は延期とした。

【名称】 山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアー

【計画日】 9月7日(月)・9月8日(火)の2日間、各々日帰りとして計画

【想定参加人数】 50人程度(※参加は矢作川流域圏懇談会のメンバーに限定)

【行程計画】 次頁にスケジュール案を示す

「バスツアーのスケジュール案」

1日目 9/7(月)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発	東口ロータリー集合		
	↓	移動(60分)	
10:00到着	水源涵養モニタリング調査サイト (豊田市大洞町)	水源涵養モニタリング調査サイトの成果報告(60分) 解説者: 蔵治光一郎様 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)	山部会
11:00出発			
	↓	移動(60分)	
12:00到着	奥矢作レクリエーションセンター 教室 (恵那市串原)	昼食・休憩(40分) ※昼食のみ体育館 奥矢作移住定住促進協議会の活動報告(40分) 解説者: 大島光利様 (奥矢作移住定住促進協議会 会長) つくラッセルの活動報告(40分) 解説者: 戸田友介様 (株)M-easy 代表取締役社長	山部会
14:00出発			
	↓	矢作ダムを見ながら マイクロバスで移動(60分)	川部会
15:00到着	阿摺ダム (豊田市富田町)	阿摺水力発電所について(45分) 解説者: 橋本秀一様 (中部電力(株)愛知水力センター 専門課長)	川部会
15:45出発			
	↓	移動(15分)	
16:00到着	阿摺ダム下流部 (豊田市富田町)	天然アユの生態調査の成果報告(60分) 解説者: 山本敏哉様 (豊田市矢作川研究所 主任研究員)	川部会
17:15出発			
	↓	移動(30分)	
17:45到着	豊田市駅		
18:00解散			

2日目 9/8(火)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発			
	↓	移動(80分)	
10:20到着	矢作川浄化センター (西尾市港町)	矢作川浄化センターの取り組みについて(60分) 解説: 愛知県西三河建設事務所 都市施設整備課	海部会
12:20出発		昼食・休憩(60分)	
	↓	移動(40分)	
13:00到着	吉田海岸 (西尾市吉良町)	三河湾吉田海岸のアサリ漁業の現状について(30分) 解説者: 石川基右衛門様 (吉田漁業協同組合 組合長)	海部会
14:00出発			
	↓	移動(45分)	
15:15到着	家下川 (豊田市榎塚東町)	家下川でのこれまでの取り組みについて(45分) 解説者: 酒井博嗣様 (豊田市文化財課)	川部会
16:00出発			
	↓	移動(10分)	
16:30到着	安永川トンネル (豊田市今町)	安永川トンネルに関する治水の問題や魚の移動経路(30分) 解説: 豊田市河川課	川部会
17:00出発			
	↓	移動(10分)	
17:10到着	明治用水頭首工 (豊田市室町)	明治用水頭首工における治水・利水の問題について(30分) 解説: 豊田市河川課	川部会
17:30出発			
	↓	移動(20分)	
17:50到着	豊田市駅		
18:00解散			

4.2 外部への発信を目指した勉強会の計画

(1) 今年度の活動目標に対する進捗状況

【今年度の活動目標】

○市民部会メンバーが知りたい情報や流域住民に知ってほしい情報に関する勉強会を開催する。

《進捗状況》

- ・勉強会のテーマを決め、実施時期や実施方法、講師選定等について検討を行った。

(2) 今年度の活動成果

- ・勉強会のテーマについて話し合い、近年注目を集めているマイクロプラスチックと、農薬に使用されているネオニコチノイドに決定した。以前より、市民部会では外部への情報発信が課題としてあがっており、今回企画している勉強会は、一般の地域住民も対象とした懇談会主催の初めてイベントとして計画を行っている。候補として挙げた講師の先生には、勉強会への参加について、依頼を行った。
- ・なお、今年度の開催も模索したが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、来年度以降に開催することとした。

【テーマ】①マイクロプラスチックの環境影響 ②ネオニコチノイド系農薬の環境影響

【実施時期】来年度以降に、テーマごとに各1回勉強会を実施する。

【講師選定】①四日市大学環境情報学部 教授 千葉様

②神奈川県立生命の星・地球博物館 苅部様

【実施場所】ホールか大きめの会議室がある豊田市の施設を検討する。

【PR方法】WEBやポスター等による広報を行い、広く参加者を募集する。

5. 次年度の目標について

次年度に向けた目標（活動計画）について

【市民部会の課題・役割】（昨年度の全体会議資料より）

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
- 市民部会としての流域連携テーマの議論
- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築
- 10年間で新たに見えてきた課題や問題の明確化
- 懇談会とつながりの薄い農業や工業の団体との関係構築

矢作川流域圏懇談会通信

R2 市民部会編 vol.1



発行日：令和2年9月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第7回市民部会 WG を開催しました！

7月14日（火）に今年度初の市民部会 WG を、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で豊田市にて開催しました。今回の市民部会 WG では、今年度実施する第1回勉強会（バスツアー）や今後の勉強会について意見交換と内容の具体化、11月に開催される「三河湾大感謝祭」への参加について、話し合いました。

日時：令和2年7月14日（火）14:10～16:30
場所：豊田市崇化館交流館4階 第2会議室
参加者：14名（内オンライン参加1名） ※事務局を含む



◆主な会議内容

黒田様が市民部会座長を辞任されたことに伴い、今年度より新体制で市民部会を進めてまいります。
【新座長】光岡金光様 【副座長】井上祥一郎様、山本薫久様

1. 「第1回勉強会（バスツアー）」の位置づけ

地域部会（山・川・海）が抱える課題などを流域圏懇談会全体での共通認識とし、つながりを深めていくことを目的に、昨年度の第6回市民部会 WG で取り上げられたバスツアーについて、計画案の検討を行いました。

【バスツアー計画案】

※7月31日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、順延が決定

- ・ 名称：山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアー
- ・ 実施日：9月7日（月）・9月8日（火）の2日間。各々日帰りを実施。
- ・ 参加人数：50人程度（*参加は矢作川流域圏懇談会のメンバーに限定）
- ・ 行程計画

1日目（9/7）：9:00 豊田市駅出発→17:00頃 豊田市駅解散

山部会：水源涵養モニタリング調査サイト、奥矢作森林塾・矢作ダム、川部会：阿摺ダム下流ソジバ

2日目（9/8）：9:00 豊田市駅出発→17:00頃 西尾駅→18:00頃 豊田市駅解散

川部会：明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川、海部会：矢作川浄化センター、吉田海岸



2. 今後の勉強会で話し合いたい内容について

昨年度の市民部会で提案のあった勉強会の実施について、テーマ、実施時期などについて、検討を行いました。

【勉強会のテーマ】

- ① ネオニコチノイド系（以下、ネオニコ系）農薬の現状と環境や生物への影響について
- ② マイクロプラスチックの現状と環境や生物への影響について

【実施時期】12月頃

【今後の検討事項】

- ・ 2テーマについて、講師の方を決める。 ・ 勉強会実施日時を講師と調整し、決定する。
- ・ 勉強会実施について、情報発信の方法を検討する。

3. 流域連携イベント 「三河湾大感謝祭」について

※8月24日、新型コロナウイルスの感染状況等を含み、中止が決定（要知州）

11月1日に第7回三河湾大感謝祭が西尾市の一色さかな広場で開催されます。懇談会も参加する予定となっており、昨年の実績をベースに、次回WGにおいて、具体的な内容、情報発信の方法等について、協議していきます。



◆話し合いでの主な意見

(●意見 ▶回答)

●第1回勉強会(バスツアー)の計画について

- ・参加者が50人となると、バスの中は密状態となる。万全の対策をとっていく必要がある。(光岡)
▶マイクロバスを2台確保している。1台に25人が乗車する。移動時は窓を開けて移動する。(事務局)
- ・3つの地域部会からあがっている9ヵ所全部を回るの、時間的に難しいのではない。(光岡)
▶つくラッセルは、活動状況等を講義形式で説明してもらうようにすると、時間に余裕ができる。(山本薫)
- ・水源涵養モニタリング調査サイトで、説明と現地視察に要する時間はどれくらいか。(光岡)
▶蔵治先生に確認したところ、1時間半程度必要とのこと。(事務局)
- ・阿摺ダム下流(ソジバ)は、矢作川研究所の話が聞けると、より理解が深まると思う。(事務局)
- ・1日目の弁当や場所などは、奥矢作森林塾(大島光利氏)に相談するとよい。(山本薫)
- ・2日目で、時間を多くとるのが矢作川浄化センターだと思う。7月20日開催の海部会WGで確認する。(高橋)
- ・2日目の行程終了後は、西尾駅を經由して豊田市駅に戻る。参加者は、西尾駅か豊田市駅のどちらか都合の良い駅で下車する。よって、2日目最後の場所で、バスツアーの締めを行うのがよいのではない。(光岡)
- ・事務局は、本日の協議内容を整理し、バスツアーのスケジュール案を組んでほしい。7-8月の各地域部会WGでスケジュール案を示し、各場所の説明者、内容、スケジュールを決めていただく。(光岡)

●勉強会で話し合いたい内容について

【ネオニコ系について】

- ・ネオニコ系がミツバチに影響があるということ、ぜひ広めたい。(沖)
- ・ミツバチのような陸の生物だけでなく、水生生物への影響についても、話を聞いてみたい。(井上)
- ・かつて散布されていた農薬が、ある時期からネオニコ系農薬に替わったことは、あまり知られていない。ハチだけでなく、多くの昆虫、動物プランクトンにも影響がある。(山本薫)
- ・ネオニコ系は、節足動物すべてに影響がある。海につながるので、矢作川流域圏懇談会で取り上げるテーマに適合している。また、ネオニコ系農薬以外の代替案などを発信していけたらよい。(高橋)
- ・アキアカネをはじめとしたアカトンボ類へのネオニコ系農薬の影響については、いくつか論文がある。水田に生息するアカトンボ類は、ネオニコ系農薬の使用により、ほぼすべて死滅することが明らかになっている。(松沢)

【マイクロプラスチックについて】

- ・マイクロプラスチックは、知らず知らずのうちに大量に使われている。それらが川から海に流れて、いろいろな影響が出ているということ、ほとんどの人が知らない。(山本薫)
- ・河川を通じて海に流下していくマイクロプラスチックによる生き物への影響など、勉強会で聞いてみたい。(井上)
- ・この問題は、川部会と同時に、川に関わる農地を扱う人たちにも広めたい。(沖)

【その他】

- ・上記問題は、部会メンバーでの情報共有のほか、外部への情報発信を行い、若い世代の参加を促すとよい。(近藤)
- ・フルタイムで働く若い世代も参加できるように、勉強会の実施は、12月あたりの土・日を候補とする。(光岡)
- ・若手中心で研究発表をしている矢作川研究所と、共催か後援という形がとれるとよい。広く情報発信できる。(井上)
- ・個人的には、川の堤防の草がどうして元気なのか、栄養塩類の関係も含め、気になっている。(山本孝)

●流域連携イベント「三河湾大感謝祭」について

- ・昨年は、赤色立体地図を使って河川の氾濫など防災の話をしたら、ブースに人が集まった。また、木のおもちゃに加えて、新しくクイズやグッズの配布を行ったことで、多くの集客があった。(事務局)
- ・今年は災害が多いので、ハザードマップなど、防災関連のネタは良いと思う。(高橋)
- ・実施する場所がさかな広場のため、佐久島との連携で海とのつながりを感じるという企画などはどうか。(近藤)
- ・国土交通省からも、パネルやパンフレットなど、防災関係の展示や配布で協力できる。(事務局)
- ・SNSなど、若い人たちが使っているもので情報発信するとよい。(高橋)
- ・勉強会のチラシを配るとよい。(井上)
- ・チラシに流域圏懇談会のQRコードを載せるなど、情報発信のサポートはできる。(事務局)

●振り返り

よかったと思うこと：山・川・海の相互理解を深めるバスツアーの企画／山・川・海共通の課題になる勉強会の具体化
今後取り組んでいきたい活動など：勉強会でアカトンボの減少の話を知りたい／技術情報の発信

今後の予定

■第8回市民部会WG ※8月6日、愛知県独自の「緊急事態宣言」の発令を踏まえ、下記の日程に順延が決定
日時：令和2年10月8日(木) 14:00~16:00 場所：豊田市崇化館交流館4階 第2会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：令和2年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第8回市民部会を開催しました！

第8回市民部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で豊田市にて開催しました。今回の市民部会WGでは、延期が決まった第1回勉強会（バスツアー）の計画、第2回勉強会の計画について、意見交換と検討を行いました。

日時：令和2年10月8日（木） 14:00～16:00
会議場所：豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室
参加者：12名（内オンライン参加1名） *事務局含む



◆主な会議内容

1. バスツアー（第1回勉強会）について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため順延が決定したバスツアー（第1回勉強会）について、今後の実施予定、実施内容について再検討を行いました。

【バスツアーの再検討】

- ・ 実施時期：冬期のコロナ感染状況、社会の情勢を踏まえながら、来年度の平日に実施する方向で再調整する。
- ・ 実施内容：バスツアーの実施内容は、第7回市民部会WGで決定した事項と基本的に同じ内容とする。説明予定者との日程調整を行い、日程を決定する。



2. 第2回勉強会について

第7回市民部会で検討した第2回勉強会の2テーマ（マイクロプラスチック・ネオニコチノイド系農薬）について、実施時期、講師選定、実施方法等について検討を行いました。

※2020年11月18日に、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、今年度の開催と見送ることが決定しました

【第2回勉強会の実施内容】

- ・ 勉強会のテーマ：①マイクロプラスチックの環境影響 ②ネオニコチノイド系農薬の環境影響
- ・ 実施時期：令和3年1～5月を目途に実施。実施時期は講師予定者と調整して決定する。
開催回数は、テーマごとに各1回の勉強会を別日に実施する。
- ・ 講師選定：10～11月に講師を選定し、12月のまとめの会で計画を具体化する。ネオニコチノイド系農薬については、地域での研究がまだ進んでいないことから、研究の地域性にはこだわらない。
- ・ 実施場所：ホールが大きい会議室がある豊田市の施設を検討する。
- ・ 勉強会のPR：勉強会の内容が固まったら、Webやポスター等による広報を行い、広く参加者を募集する。勉強会を通じて流域圏懇談会の活動を外に発信していくことにより、20年目に向けたスタートとする。

3. その他

12月に予定されている「まとめの会」の内容・日程について協議しました。まとめの会では、全体会議での報告内容を見据え、第2回勉強会の進捗と具体化、今年度の反省と次年度の目標などを協議することが決まりました。また、情報共有・情報発信について意見や提案が出されました。

【市民部会 まとめの会の実施】令和2年12月9日（水）14時～ 豊田市崇化館交流館



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●バスツアー（第1回勉強会）について

- ・この冬のコロナの状況をみて、年度内に実施できるか来年度になるかがわかると思う。(高橋・近藤)
- ・今年度2月にやるとなった場合は、現場を見ながら今年の成果の確認とするのも一つだろう。(山本孝)
- ・密を避けるという点でも、個人の車で参加も検討するほうがよい。(高橋)
 - ▶個人の車で、駐車場が必要で全員は無理がある。バス2台では、30名弱の参加を想定する。(光岡・事務局)
- ・なるべく多くの人に参加でき、安全な時期で設定したい。実施時期は年明けに再検討するほうがよい。(近藤)
- ・10年誌の配布が年明けとなるので、10年誌をバスツアーの教科書として使用するのもよい。(近藤)
- ・楽しく、健康なバスツアーとしたいので、4~5月ごろの実施がよい。(浅田)
 - ▶4月頃の平日の実施を目的に説明者の予定を調整する。(光岡)

●第2回勉強会について

【講師の選定について】

- ・講師は、矢作川流域、伊勢・三河湾流域、愛知や東海地域で研究している方等をお願いしたい。(浅田)
 - ▶マイクロプラスチックの講師では、四日市大学に適した研究者がいるので講師として検討したい。(近藤)
 - ▶輸入小麦粉関係でネオニコチノイドを調べている方が四日市大学にいる。(沖)
 - ▶ネオニコチノイドについては、研究が進んでいないため、この地域の研究者にこだわる必要はない。(近藤・内田)
 - ▶ネオニコチノイド系農薬の生物影響について、関東に適した研究者がいるので講師として検討したい。(松沢)
 - ▶ネオニコチノイド系農薬の生物影響は養蜂家の関心も高い。名古屋近辺の大学に研究者がいるかも。(浅田)
- ・マイクロプラスチックやネオニコチノイドに生物や環境を絡めて語れる方がよい。(松沢)

【開催時期、開催方法について】

- ・講師の方の予定を第一優先として、12~5月くらいの期間で検討するほうがよい。(山本薫)
 - ▶十分な準備ができる1~2月、4~5月での実施を検討していく。(光岡)
- ・1回1テーマとし、2回に分け、質問時間も含めて時間を十分とるほうがよい。(井上・山本薫)
- ・講師による講義は最大で90分以内とし、質問時間を含めて2時間程度がよい。(光岡)
- ・市民部会で知りたいことや、聞きたい内容を事前にまとめて講師にお伝えするとよい。(事務局)
- ・理想としては大きな会場で、リモートも併用して実施したい。(近藤)
 - ▶会場としては豊田市がよいと思う。(光岡)
- ・一般市民への情報発信も目的としているため、開催は土日を含めて設定するほうがよい。(近藤)
 - ▶土曜日の夕方などもよいのではないか。(山本薫・浅田)
 - ▶勉強会は土日での設定を検討する。(光岡)

【マイクロプラスチックの勉強会について】

- ・矢作川流域圏や伊勢・三河湾流域圏の状況を踏まえて話がしてもらえるとよい。(浅田)
- ・前回WGでは農業系の問題があげられたが、スクラップ材としては、一般工業系の問題もある。(光岡)
- ・化粧品など、マイクロプラスチックを自分が知らずに使っているということは、気づいていないと思う。若い人たちに周知する、良いタイミングになると思う。たくさんの方に聞いてもらえるとよい。(光岡)

【ネオニコチノイド系農薬の勉強会について】

- ・トンボは人里に近い水域に生息するので、トンボへの影響の話がよいと思う。(内田)
- ・生物影響についてはトンボで研究が進んでいる。全国共通の話でよいと思う。(松沢)
- ・ネオニコチノイドの全国的な話に加えて、愛知県のトンボに詳しい人にも話をしてもらおうとよい。(内田)
- ・ネオニコチノイド系農薬は、トンボだけではなく河川に生息する節足動物にも影響があるように思う。(高橋)
 - ▶山地河川の水生昆虫には影響は出ていないと思う。河川では魚はいるのに水生昆虫がいないところがある。(内田)

【勉強会の広報について】

- ・勉強会のチラシを作成し、いろんなところでアピールする。WEBを使って参加や配信をしていきたい。(山本薫)
- ・外部への発信は、流域圏懇談会20年目に向けたスタートとして、すごく大きいことと思う。(近藤)
- ・勉強会は、若い人をターゲットとしたい。スマホやSNSなどを使っての広報を検討するとよい。(高橋)

●その他

- ・日程調整、連絡など、SNSは役に立つ。SNSの利用を検討してほしい。(山本薫・浅田)
- ・勉強会を市民部会で試行し、来年度から懇談会の外に向けた企画としていければよい。(近藤)
 - ▶流域圏懇談会として情報の発信は大きなテーマと考える。(光岡)
- ・外に向けた教育活動は、流域圏懇談会として大きな事業と思う。市民部会で企画していけたらよい。(浅田)
- ・アザリの問題で釜素・リンに着目しているが、シリカも重要であることを提言していきたい。(井上)

今後の予定

■市民部会まとめの会

日時：令和2年12月9日(水) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@net.or.jp)までお送りください。

